

ポーランド政治クロノロジー(2011年9月)

月	内政	外交
9月	<p>1日 トゥスク首相,第二次世界大戦開戦記念日式典に出席(於:グダンスク)。</p> <p>1日 下院,スポーツイベントでのアルコール販売を禁じる上院提出の改正法案を否決。</p> <p>1日 下院,人工妊娠中絶を完全に禁止する市民法案及び12週までの人工妊娠中絶を自由化する民主左翼連合(SLD)提出の法案を否決。</p> <p>7日 ギロフスカ金融政策諮問委員,議会選挙には関与しないと発言。</p> <p>7日 TVP(国営放送)にて,経済政策に関する公開討論。</p> <p>8日 コモロフスキ大統領,総選挙後に憲法改正を含む経済・社会諸改革にとり進む意欲を表明。</p> <p>8日 トゥスク首相,公立幼稚園・保育園入園費値上げに対する公的負担を示唆。</p> <p>9日 TVN(民間放送)にて,第2回公開討論会(議題は外交政策)。</p> <p>9日 カチンスキ「法と正義」(PiS)党首,クリニツァ経済フォーラムにて,税制改革の必要性を主張。</p> <p>10日 市民プラットフォーム(PO),選挙プログラムを発表。EU予算の効率的な活用,財政健全化,イノベーション,行政簡素化等につき選挙公約を公表。</p> <p>12日 コモロフスキ大統領,手話に関する法案に署名。</p> <p>12日 ロストフスキ財相,PO 選挙プログラムは財政健全化の障害にならないとの見解を表明。野党は,同プログラムはポーランドの問題を反映していないと批判。</p> <p>13日 コモロフスキ大統領,経済危機はEU 統合深化のチャンスと発言,更にユーロ加盟に際し,国民投票の手続きは必要ないとの見解を表明。</p> <p>14日 スヘティナ下院議長,PO が総選挙で勝利すれば,トゥスク首相が続投するとの見解を表明。</p> <p>15日 コモロフスキ大統領,エネルギー安全保障に関する国家安全保障会議を召集。</p> <p>16日 下院会期の閉会。下院,公共情報アクセスの制限に関する法案を可決。野党 PiS は反対。</p> <p>16日 TVN にて,第3回公開討論会開催(議題:インフ</p>	<p>1日 トゥスク首相,リビア・フレンズ会合に出席(於:パリ)。</p> <p>1日 セレメト検事総長,ベラルーシとの司法協力の簡易手続きに関する合意を破棄する旨決定。</p> <p>1日 スクシブチャク元陸軍司令官,シェモニャク国防相の私的顧問に就任。</p> <p>2日 外務省,在リトアニア・ポーランド人がリトアニアにおける教育法改正に反対し,ストライキを実施したことに対し,リトアニア政府の取り組みを批判する声明を発表。</p> <p>2日 EU各国外相による非公式会合開催(-3日,於:ソポト)。</p> <p>4日 トゥスク首相,リトアニア訪問。</p> <p>5日 バコンスキ・ルーマニア外相,ポーランド訪問。</p> <p>5日 チュニア及びエジプトの野党代表団,ポーランド訪問(-10日)。</p> <p>5日 政府専用機事故に関する事故調査最終報告書の付属書公表。</p> <p>5日 第19回国際防衛産業展示会開催(-8日,於:キエルツェ)。</p> <p>7日 第21回国際経済フォーラム開催(-9日,於:クリニツァ)。</p> <p>8日 コモロフスキ大統領,ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領と電話会談。</p> <p>8日 ヴルフ独大統領,ポーランド訪問(-9日,於:クラクフ,トマショヴィツェ)。</p> <p>8日 アムル・エジプト外相,ポーランド訪問(-9日)。</p> <p>9日 コモロフスキ大統領夫妻,ブリュッセル訪問。</p> <p>9日 オハニアン・アルメニア国防相,ポーランド訪問。</p> <p>11日 クファシニェフスキ元大統領,ウクライナ訪問。</p> <p>12日 コモロフスキ大統領,欧州議会にて演説。</p> <p>12日 トゥスク首相,ブリュッセル訪問。</p> <p>13日 ロストフスキ財務相,欧州議会にて演説。</p> <p>14日 ネチャス首相,ポーランド訪問(於:チェシン)。</p> <p>15日 コエーリョ・ポルトガル首相,ポーランド訪問。</p> <p>15日 米・ポーランド両国,米ミサイル防衛(MD)システムのポーランド配備に関する協定の発効を発表。</p>

<p>ラ・地方開発)。グラバルチク・インフラ相及びPiS代表は欠席。</p> <p>19日 トゥスク首相、「トゥスク・バス」にて地方遊説開始。</p> <p>19日 カチンスキPiS党首、選挙後、首相に選出された場合、ブゼク欧州議会議長、レヴァンドフスキ予算・財政計画担当欧州委員と協力する旨発言。</p> <p>20日 トゥスク首相、2014年のVAT税率の引き下げを示唆。</p> <p>22日 カチンスキPiS党首、選挙に勝利し、首相に選出された場合、大統領と協力する旨発言。</p> <p>23日 首相府前で、元警官が焼身自殺を図る。</p> <p>23日 TVNにて、第4回公開選挙討論会開催(議題:農業・地方開発)。</p> <p>24日 トゥスク首相、遊説先で、議会選挙の勝利及び2期目の首相続投に意欲を示す。</p> <p>24日 ギロフスカ通貨政策諮問委員、同委員会の中立性の原則に反し、PiS選挙綱領への支持を表明。</p> <p>25日 カチンスキPiS党首、遊説先で、若者世代に対する優遇税制、社会保障の拡充を提唱。</p> <p>26日 コモロフスキ大統領、公開情報アクセスに関する法改正案に署名。</p> <p>27日 政府、2012年予算案を承認。同案は歳入を2928億ズロチ、歳出を3278億ズロチ、財政赤字を350億ズロチ、12年の経済成長率を4.0%、年間インフレ率を2.8%と見積る。</p> <p>27日 カチンスキPiS党首、選挙後のSLDとの連立は、両党の政治道徳観の相違から否定。</p> <p>28日 ロストフスキ財務相、ナピエラルスキSLD党首と、税・財政に関する公開討論を行う。ナピエラルスキ党首は、現政権の経済政策を批判。</p> <p>29日 ロストフスキ財務相、PiS及びSLDの公約を実現した場合には、大幅な追加的財政支出が必要となり、財政赤字が拡大すると発言。</p> <p>29日 PiS、シェールガス政策を発表。政府は、本件の国家的管理・関与が欠如していると批判。</p> <p>30日 TVNにて、第5回公開討論会開催(議題は財政)。</p>	<p>16日 トゥスク首相、リガ会議に出席。</p> <p>16日 シコルスキ外相、ヤルタ欧州戦略会議に出席。</p> <p>16日 ゲオルギエヴァ欧州委員会国際協力・人道援助・危機対応担当委員、ポーランド訪問。</p> <p>16日 クラフト独連邦参議院議長、ポーランド訪問(-17日)。</p> <p>16日 米ペトリオット部隊のローテーション配備開始。</p> <p>17日 トゥスク首相、クロアチア訪問。</p> <p>20日 シェモニャク国防相、ポーランド軍第10次アフガニスタン派遣部隊の規模を2500名(100名減)、国内待機の戦略予備要員を200名(200名減)とする旨発表。</p> <p>21日 コモロフスキ大統領、独訪問。</p> <p>21日 コモロフスキ大統領、国連総会出席(-24日)。</p> <p>21日 コジエイ国家安全保障局長官、露主催第2回安全保障問題担当高級代表者国際会議に出席(於:エカテリンブルク)。</p> <p>22日 外務省、「ダーバン3会合」への欠席を表明。</p> <p>22日 ミレル内相、EU司法・内務理事会に出席(-23日、於:ブリュッセル)。</p> <p>22日 EU各国国防相による非公式会合開催(-22日、於:ヴロツワフ)。</p> <p>23日 ヨシボヴィチ・クロアチア大統領、ポーランド訪問(-24日)。</p> <p>26日 OSCE人道分野の履行状況に関するレビュー会合開催(-10月7日、於:ワルシャワ)。</p> <p>27日 コモロフスキ大統領、サイバー空間において発生した災害に対し戒厳令を発動し得る法案に署名。</p> <p>28日 ノルウェー参謀長ヘラルド・スンデ将軍、ポーランド訪問(-29日)。</p> <p>29日 東方パートナーシップ首脳会合(-30日、於:ワルシャワ)。</p> <p>29日 コモロフスキ大統領、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領及びフィヨン仏首相と会談。</p> <p>29日 シコルスキ外相、ポーランドとして東方パートナーシップ信託基金に100万ユーロを提供する旨表明。</p> <p>29日 シェモニャク国防相、エルブロングからゴウダピアに移転予定の第15防空連隊の内、1個高射隊をエルブロングに残すことを決定。</p>
---	--